

全農薬通報

No311

平成 29 年10月 20 日

目 次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・組合員の動き等
- ・訃報（故金子昌弘カネコ種苗専務、全農薬理事）

◎行政機関等からのお知らせ

- ・農業資材比較サービス「AGMIRU（アグミル）」について
- ・バンカーシート利用マニュアル（農研機構）

◎全農薬ひろば

- ・シオン（紫苑）



全国農薬協同組合

〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル

電話 03-3254-4171 FAX. 03-3256-0980

<http://www.znouyaku.or.jp> E-mail:info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

- 10月25日(水)～27日(金) 農薬安全コンサルタントリーダー研修会
10月26日(木)13:00～15:00 監査会
11月14日(火)15:30～17:00 第282回理事会
11月15日(水)10:30～19:30 第52回通常総会・第40回全国集会・情報交換会
12月7日(木)11:00～14:00 第28回執行部協議会
14:00～15:00 各委員会
15:00～17:00 第283回理事会
12月8日(金)10:30～12:00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会第8回総会

平成30年度全農薬地区会議日程

地区名	月日(曜日)	時間	会場名
東海	2月6日(火)	11:00～16:30	メルパルク名古屋
中国・四国	2月7日(水)	11:00～16:30	メルパルク岡山
近畿	2月8日(木)	11:00～16:30	大阪ガーデンパレス
北陸	2月9日(金)	11:00～16:30	石川農業共済会館
関東・甲信越	2月14日(水)	11:00～16:30	東京ガーデンパレス
東北	2月15日(木)	11:00～16:30	メトロポリタン盛岡 (ニューウイング)
九州	2月20日(火)	11:00～16:30	熊本空港ホテルエミナース
北海道	2月22日(木)	9:30～16:30	札幌商工会議所

「植物防疫関係団体」

(農薬工業会)

日時：11月8日(水) 午後4時～虫供養(浅草寺)

場所：金龍山 浅草寺本堂他



組合からのお知らせ

1. 全農薬受発注システム利用メーカー協議会

日時：平成29年8月30日（木）、午後4時～午後5時15分

場所：全農薬9F会議室

議事：



- (1) 平成29年度名簿確認について
- (2) 協議会の運営について
- (3) 組合員アンケート(まとめ)について
- (4) 納品先マスターコード統一化について
- (5) その他

出席者：全農薬受発注システム利用メーカー、全農薬受発注センター
全農薬事務局（伊藤参事、山口）

2. 「農薬ゼミ」共催団体打合せ会議

日時：平成29年8月31日（木）、午後4時～午後5時

場所：農薬工業会 会議室

議事：

- (1) 「農薬ゼミ」の実施報告及び開催計画について
- (2) 当会の広報関連活動について
- (3) その他

出席者：全農薬事務局（宮坂技術顧問）

BS-TBS 番組 知っとく！ベジライフ3「オーダリー春日の食の安全委員会」放送中



大好評だったシリーズ2に続き今回は「消費者・農業者の交流」をテーマに、農作物の栽培過程を消費者（主婦レポーター）に体験してもらいます。その内容をもとにスタジオで消費者、生産者、グルメコメンテーターであるギャル曽根さんが加わり、農薬の専門家を交えてオードリー春日さんが進行役となる番組を放送します。

◇放送時間：10月～12月の毎週木曜日 21時54分～59分、全9回

3. 全国複合肥料工業会及び(一社)全国肥料商連合会の講演会

日時：平成29年9月12日（火）、午後3時15分～午後7時

場所：東京ガーデンパレス

講演会：

演題：「中国・インドの経済、社会事情」～海外駐在員から見た、日本農業への示唆～

パネリスト： 元三菱商事(株)常務執行役員 松井俊一氏

元三井物産(株)常務執行役員 鈴木 徹氏

進行役： 奥村商事(株) 社長 奥村友三氏



奥村商事(株)奥村友三氏の司会進行によりパネルディスカッションが行われ、パネリストから中国・インドの政治、経済、外交、対日関係及び農業事情についてわかり易く解説された。中国・インドともに食の安全への関心が高まりつつあり、今が中国に日本の品質の高い安全・安心な農産物売り込むチャンスで、インドでは安全・安心な農産物の現地生産に手助けが出来るのではないか等、今後の生産資材（肥料等）業界等への示唆に富んだ話を伺うことが出来た。

出席者：全農薬事務局（伊藤参事、宮坂技術顧問）

4. 第32回報農会シンポジウム「植物保護ハイビジョン2017」

—変わる農業が抱える諸問題に挑む—

日時：平成29年9月13日（水）、午前10時15分～午後7時

場所：「北とぴあ」つつじホール

挨拶 報農会理事長 田付 貞洋 氏

○報農会シンポジウム田付理事長あいさつ

報農会シンポジウムは共通タイトル「植物保護ハイビジョン」を掲げて毎年一回開催する

本会の最も重要な活動の一つです。ここ数回のシンポジウムでは、近年の農業環境の激変の中で植物保護がいかなる方向を目指すべきかを様々な角度から探ってまいりました。



「激変」には、気象変化やグローバル化に端を発する貿易拡大や外来生物といった地球規模の問題から、後継者不足や耕作放棄地など個々の農家・農地レベルの問題まで様々な段階がありますが、それらはレベルを超えてどこかでつながっていることも多く個別の問題だけを見ているでは解決が難しいと感じています。加えて、「激

変」の中身が時とともに変化しています。米国新大統領の言動が世界を揺るがせていることに代表されるようにグローバルな社会・経済状況が明日はどのような予測さえ難しいのが実情ではないでしょうか。

気象変化、とくに温暖化にヒトの活動が少なからず影響していることは間違いありません。よりマクロな視点で太陽の活動に代表される地球外の宇宙の動向（小惑星の衝突のような極端な例でなくても）が地球環境に基本的な影響を与えていることも忘れてはならないことと思います。

以上のような不安定な状況にあって、わが国ではグローバル化を受け入れながらも食糧安定供給の観点から食糧自給率の向上・確保を目指すことが不可欠です。国際競争力を高めながら国内で安全で持続可能な農業を堅持するには、最低限、「コストの低減」と「環境保全」を両立させ、なおかつ生産物の「高品質・高付加価値化」を達成しなければならないでしょう。そうした困難な状況を十分認識したうえで、本シンポジウムのタイトルにもあります「ハイビジョン」をもって植物保護を考え進めると、今さらと言われるかもしれませんが、やはりIPMに行きつきます。

IPMについては本シンポジウムでも過去に何度か取り上げそれぞれの時代にマッチした議論を重ねてきました。ただ、以前のIPMはともすると「絵に描いた餅」と郷楡される側面が目立ったことは否めません。しかし、その後の関係者のたゆまぬ努力が徐々に実り、今ではIPMが名実ともに「生産現場の切り札」になろうとする段階にまで来ているのではないかと思います。

今回は以上の背景から、「国際調和」、「コスト低減」、「IPM」に関連して第一線でご活躍中の5人の先生方に講演をお願いしました。それぞれの講演タイトルから上に書きましたシンポジウムの意図をご理解いただけるものと思います。そして、本日のシンポジウムが当会設立の原点たる「農に報いる」一助としての役割をも果たすことができますように心から念願します。

最後になりますが、ご多用にもかかわらず今回のシンポジウムにご参加くださった皆様、講演ならびに座長を快くお引き受けくださった先生方、企画段階から本日の進行に至るまで長期にわたり種々ご尽力くださったシンポジウム開催実行委員会委員の先生方、その他お力添えいただいた多くの皆様に対し、報農会を代表して厚くお礼申し上げます。

講演：

○農薬取締行政の改革について

農林水産省消費・安全局農産安全管理課 農薬対策室 古畑 徹

○海外での病害虫発生と生物農薬の使用・IPM の現場について

三井物産株式会社 平田 秀嗣

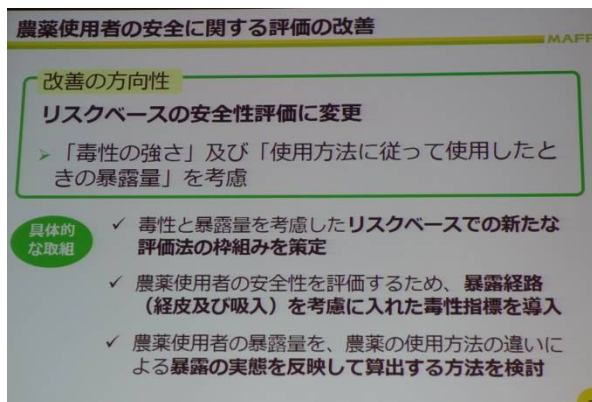
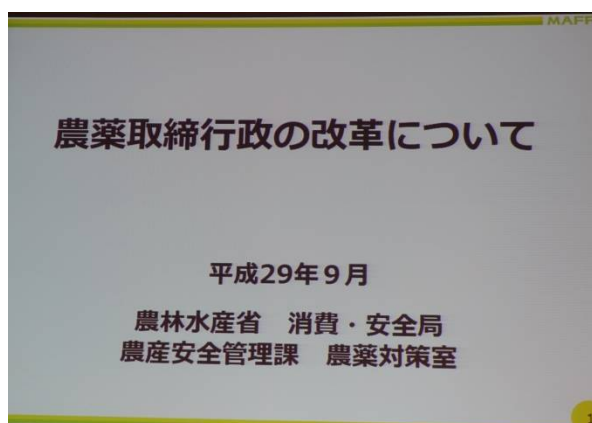
○アミノ酸による作物の病害抵抗性誘導

農研機構 生物機能利用研究部門 瀬尾 茂美

○Bacillus 属等微生物を用いた病害防除とその展望

農研機構 中央農業研究センター 吉田 重信

○総合討論



この日注目の講演は農薬対策室の古畑室長の講演した、7月13日の農業資材審議会農薬分科会で公表された「農薬取締行政の改革について」であった。

残念ながら、審議会の農薬分科会で公表された課題以外の情報についてこの日は公表されなかったが、全農薬の立場からは、農薬使用者に対する安全性評価について注目したい。

なお、古畑室長は公務多忙のためこの後退席された。



総合討論の様子。

※報農会シンポジウムの講演概要については以下のアドレスからご覧下さい。

<http://www.honokai.org/PDF/Symposium-32/Symposium-32-Kouen-Yoshi-1.pdf>

第 32 回報農会功績者表彰式

シンポジウム終了後、功労者表彰式が開催され、農業・植物防疫に貢献された今井國貴氏(兵庫県)、竹谷宏二氏(石川県)、余儀喜雄氏(沖縄県)がそれぞれ表彰された。



写真：向かって左より、田付理事長、今井國貴氏(兵庫県)代理、竹谷宏二氏(石川県) 余儀喜雄氏(沖縄県)の各氏。



来賓挨拶をする農水省島田植物防疫課長と中締の挨拶をする全農薬宇野理事長。

出席者：宇野理事長、宮坂技術顧問

5. (一社)日本植物防疫協会シンポジウム「薬剤施用法を考える」

日 時：9月14日(木) 10時～

場 所：日本教育会館「一ツ橋ホール」

趣 旨：我が国では、多様な栽培体系を背景とし、防除作業の効率化に資する様々な薬剤施用法が実用化されているが、栽培体系の変化や機械化の進展により、一部に混乱がみられる現状にある。また、大規模化や省力化の促進が課題となる中、病虫害防除にあっても機械化体系への適合を考慮した一層効率的・省力的な薬剤施用法がますます重要になってくると考えられる。このため、本シンポジウムでは栽培管理作業の機械化の現状と展開方向を踏まえ、今後の薬剤施用法について考える。

演題：

開 会 挨拶 上路雅子理事長

- (1) 薬剤施用法をめぐる論点
一般社団法人 日本植物防疫協会 藤田俊一 理事
- (2) 水稻の新しい移植栽培法の展開
農研機構 農業技術革新工学研究センター 藤岡 修 氏
- (3) 水稻初期防除における新しい粒剤施用法
Meiji Seika ファルマ株式会社 寺岡 豪 氏
- (4) 種子処理による省力的な薬剤施用法
バイエルクロップサイエンス株式会社 森 拓馬 氏
- (5) 畑作の耕起・畝成形機の現状と薬剤施用法
農研機構 中央農業研究センター 深山 大介 氏
- (6) 海外での薬剤施用法の現状と国内への適用における課題
シンジェンタ ジャパン株式会社 杉井 信次 氏
- (7) 総合討論

閉 会

出席者：事務局出席者無し（全農薬理事会と重なったため）

○上路理事長開会挨拶



おはようございます。本日のシンポジウム「薬剤施用法を考える」に、多くの皆様のご出席をいただきありがとうございました。

さて、我が国では特有の営農形態を背景に、生産現場でのきめ細かなニーズに対応する多様な薬剤施用法が、高い病虫害防除効果や、省力化、低コスト化、安全性などを目指して進化してまいりました。

本協会においても以前より施用法に関する検討を重ねてきた経緯があり、新しい散布法の実用化やドリフト対策マニュアル刊行などに取り組む一方、施用法をテーマとしたシンポジウムも過去20年間で計6回開催してまいりました。

ご承知のとおり、昨年「農業競争力強化プログラム」が決定され、生産資材費の低減に向けた取り組みがはじまり、農業の大規模化や効率化に向け、農業機械の導入による様々

な技術革新も本格化しています。しかしながら、わが国の薬剤施用法の多くは、必ずしも効率的な農業機械の利用を前提としてきていないという実態があります。今後、大規模化・省力化・低コスト化に向けた農業作業体系の構築が重要課題となっていく中、薬剤施用法をどうするかは喫緊の課題です。こうした認識から、昨年度の当協会の重点課題のひとつに「薬剤施用法の検討」を掲げました。そして、論点整理のために全国アンケートを実施するなど、具体化に向けた検討を開始し、また、本年度は、協会自らの自主的な試験研究の一部として取り組んでいるところです。

本日のシンポジウムは、このような検討スキームの一環として計画したものです。講演では、最初に当協会から薬剤施用法に関する論点、そして、この中で協会の認識や取り組み方針についてご説明させていただきます。

次いで、水稻分野について3人の演者からご講演いただきます。まず、農研機構農業技術革新工学研究センターの藤岡様から、水稻の新しい移植栽培法と農業機械の開発方向を、次に Meiji Seika ファルマの寺岡様から、水稻の新たな栽培技術を見据えた薬剤施用法の開発動向について解説いただきます。さらにバイエルクロップサイエンスの森様から、種子処理の世界及び日本での開発状況についてご紹介いただきます。

その後、農研機構中央農業研究センターの深山様から、畑作における様々な耕起・畝成形機の現状について、次にシンジェンタジャパンの杉井様から、海外の散布技術の特徴と我が国への導入例などについてご紹介いただくこととしております。

演者の皆様には大変お忙しいところご講演を快くお引き受けいただき厚く御礼申しあげます。なお、水稻の新しい移植栽培技術については、既に全国各地で話題となっており、さきごろ農機メーカー各社からも話題提供のご相談がありました。そこで、本日のシンポジウムを早めに終わらせ、引き続きこの会場で農機メーカーさんによる説明会を開催するよう、プログラムを調整致しました。急な変更でご迷惑をおかけしますが、お時間のある方は是非お聞き下さるようご案内申し上げます。

最後に、効果的な薬剤施用法を考えると、農業機械と農薬の連携が重要であり、いずれが欠けても機能しません。しかし、なかなかうまくいかない悩みがあり、新しい農業を着実に展開していくためには、今こそ農業機械と農薬が的確に連携して、効率的な薬剤施用法を確立していくことが不可欠と考えております。今回のシンポジウムがそうした取り組みの契機となることを願い、開会の挨拶とさせていただきます。

○講演の概要は、以下のアドレスからご覧頂けます。

http://www.jpqa.or.jp/zz_kaiinjouhou/comment/20170929_1.pdf



パネルディスカッションの様子

6. 全農薬第24回執行部協議会

日時：9月14日（木）、午前10時30分～12時15分

場所：全農薬9F 会議室

議事：

1) 理事会議決事項について

- ①平成29年度決算(案)に関する件
- ②組合員の加入、及び脱退に関する件
- ③平成30年度事業計画(案)に関する件
- ④平成30年度安全協事業計画(案)に関する件

出席者：宇野理事長、宮崎副理事長他関係理事。

事務局（伊藤参事、山本副参事、宮坂技術顧問）

7. 全農薬委員会

日時：9月14日（木）、午後1時00分～午後2時00分

場所：全農薬9F 会議室

「総務委員会」

- ① 農薬ビル(不動産)のあり方の検討について
- ② 事務所経費削減方法の検討について
- ③ 各種規定類の見直し、作成について
- ④ その他

「経済活動委員会」

- ①共同購買事業の実績見込みについて
- ②支部別特別奨励の中間実績(8月末)報告について
- ③その他

「教育安全委員会」

- ① 平成30年度安全協事業計画案に関する件
- ② 安全協第39回全国集会について
- ③ 平成29年度農薬シンポジウム開催(報告)について
- ④ 平成30年度農薬シンポジウム開催予定について
- ⑤ その他

8. 第281回理事会

日時：9月14日(木)、午後2時～午後4時30分

場所：全農薬9F 会議室

出席者：宇野理事長、宮崎副理事長、木幡、坂本、菊池、栗原、小宮山、石黒、青木、中村、橋爪、大森、佐伯、池田（洋）、安部各理事、佐藤、田中（公）、田中（秀）の各監事（※敬称略）

欠席：山本副理事長、北濱、喜多の各理事。

事務局（伊藤参事、山本副参事、宮坂技術顧問）

○宇野理事長挨拶概要

会議の冒頭、8月25日にご逝去された金子理事について謹んでお悔やみ申し上げます。

金子理事には通算11年間の長きにわたり全農薬の理事を務めて頂いた。その間、常務理事、経済委員長を歴任いただき、直近では経済委員会で委員長として活動いただいた。私



が副理事長時代色々な事を相談すると、明るく「大丈夫、大丈夫」と励ましてくれた。享年57歳という若い先輩が亡くなられて本当に残念でならない。謹んでお悔やみを申し上げます。 合掌

本日は、農薬年度末の忙しい時期に理事・監事の皆さんにご出席いただき感謝致します。慶事の関係では春の叙勲で大信産業の田中会長が旭日双光章を受章され大変おめでたく思います。4月以来の理事会だが、その間5月12日に成立した、農業競争力強化支援法案の説明会が全国各地で開催され、昨日の新聞で全農は肥料の取扱銘柄を約400から17に集約し、農家から予約を取った後メーカーと価格交渉すると報道されている。



防除暦でも品目を絞り予約をとるとしているが商系サイドではそのような話や指示は無い。後手となるが、好転できる事を期待する。また、7月13日には、農林水産省の農業資材審議会の農薬分科会に出席した。農薬の安全性に関する国際調和を図るとの主旨で、農薬の再評価が強調されている。欧米との制度に合わせていくとの事だが、既に再評価を終了させているヨーロッパでは、農薬の品目が約900から300に減少した。病害虫の発生が多い日本ではEU並みに農薬が減少すると病害虫防除の現場が大変困る。農薬の抵抗性問題もあるので、植物防疫の現場が混乱することの無いように要請していきたい。

また、全農薬で扱っている品目は、古いものが多く、再評価で登録が失効する可能性が懸念される。そうすると共同購買事業で成立している全農薬の屋台骨が揺らぐ事になる。

喫緊の課題として今後、全農薬の屋台骨となる農薬を取り込み円滑な組合運営が出来るよう検討しなければならない。そういった意味に於いても本日の理事会が有意義な会議になるように協力をお願いしたい。

議事：

(1) 議決事項

- ①平成29年度決算(案)に関する件
- ②組合員の加入及び脱退に関する件

③平成30年度事業計画(案)に関する件

④平成30年度安全協事業計画(案)に関する件

(2) 協議事項

① 第52回通常総会(議事)及び安全協第40回全国集会スケジュールについて

② 第52回通常総会議長候補選出について

③ 組合員事業所永年勤続表彰について

④ 平成29年度植物防疫地区会議について

⑤ 平成30年度地区会議について

⑥ 理事1名欠員後の体制について

⑦ 新規事業の検討について

⑧その他(定款の変更について)

(3) 報告事項

①第44回安全協常任幹事会報告

②各委員会報告

③消費者を交えた農薬シンポジウムの開催報告(広島県、北海道、宮崎県(開催順))

④支部別特別奨励(8月末中間実績)について

(4) その他



理事会の冒頭、8月にご逝去された金子理事を偲び黙祷を捧げる。

○理事会での注目ポイント

【新規事業検討】

農薬登録制度改革に伴い、これからの「全農薬扱い品目」も変化することが想定される。

このため、全国農薬協同組合(全農薬)における新事業を模索するため、執行部協議会の宮崎副理事長、橋爪理事を中心に検討チームを発足させたいと提案が有り、異議なく満場一致で了解された。

検討メンバーは7~8名で構成し、小規模であっても地域に根ざしている組合員も加わって頂き、幅広く検討する事とした。

9. 植物防疫研修会（10月2日から6日、16日～20日）

全農薬では研修希望者が多いため、（一社）日本植物防疫協会に10月に2回の研修をして頂くようお願いした。



前任の石谷秋人さんに変わり、佐伯京子さんが「植物防疫研修」担当者となりました。佐伯さんによるオリエンテーリングを熱心に聞く聴く研修生。

感想：最近、大変真面目な研修生が多い。



農林水産省植物防疫課の白石課長補査の講義を真面目に聴く研修生

○第88回植物防疫研修会

日時：10月2日(月)～6日(金)

場所：（一社）日本植物防疫協会本部 B1 大会議室

全農薬研修生：22名

主催者挨拶：（一社）日本植物防疫協会 上路理事長挨拶概要

本日は日本植物防疫協会主催の第88回植物防疫研修会にご参加頂き、感謝申し上げます。

第88回と言うことからもお分かりの通り、この研修会は1974年から開講しているもので、これまでの受講者の累計は5千人以上にのぼっています。開講当初は全農薬関係者を対象としていましたが、1983年からは農薬工業会の関係者も対象とし、さらに2009年からは、若干ではありますが、両団体関係者以外の方々にも受講頂けるように改善を図って参りました。このたび、これまで以上に質の高い研修となるよう研修カリキュラムの見直しを致しました。具体的には、各科目の研修内容をより体系だったものとするために、研修要綱に従って各科目の研修項目を整理し、病害虫や農薬に関する技術的な知識の他、植物防疫法、農薬取締法、環境に関する各種法令、食品に関する法令など植物防疫の



幅広い分野について、関連する講義内容をまとめて理解しやすい時間割といたしました。

そして、この研修会の最大の特徴は、5日間で18科目に及ぶ講義をそれぞれ第一線の専門家にご担当頂くという、他に類のない内容の充実ぶりにあります。植物防疫を構成する専門分野は、そのひとつずつが大きな学問分野であり、講義を通じて学べることは限られています。しかし、この研修会でしっかり学んで頂ければ、植物防疫を構成する複雑で難解な専門分野がきっと身近なものになるはずで

す。皆さんには、各専門分野のエッセンスを感じ取り、「正しい基礎知識」を身につけることを目標として受講頂ければ幸いです。

さらに、5日間という研修期間を通して、お互い初対面であった受講者同士に親交が生まれ、仕事にも大きなプラスになったという嬉しい話もよく耳にします。受講生の多くは、農薬の製造や販売に従事されている、実務経験が比較的浅い方々であろうかと思いますが、この研修会が、植物防疫という幅広い分野の第一線の講師陣から学べるとともに、様々な関係者と親交をはぐくめる機会になることを願っております。

あいにく会場が狭く、5日間の連続した講義は決して楽なものではないと思いますが、皆様にとって有意義な研修会となることを期待します。最後に、この研修会は、当協会の公益事業の一つとして位置づけており、皆さんからいただいている費用は資料代等の実費のみであることをご理解願って、開講の挨拶といたします。

出席者：宮坂技術顧問、福田

全農薬及び農薬工業会からの要望で、今年は回数を1回増やしていただいた。それでも定員一杯となる大盛況。直前になり体調不良で2名取り消す。残念ながら4人が70点以下の成績となった。



今回から研修内容を見直し、試験問題も大幅な改訂を行ったため、100点満点の回答者は1人だけ。

○第89回植物防疫研修会

日時：10月16日(月)～20日(金)

場所：(一社)日本植物防疫協会本部 B1 大会議室

全農薬研修生：22名(体調不良で3名事前取消)

出席者：宮坂技術顧問、福田

今回は、全農薬と農薬工業会の会員のみで開催。



○（一社）日本植物防疫協会 挨拶をする上路雅子理事長と研修生



○農林水産省 植物防疫課 藤井係長の講義の様子



○農林水産省農薬対策室 平林係長の講義の様子



○FAMIC 農薬検査部の塩澤明日香専門調査官



○真剣に試験問題に取り組む研修生！ その成果として満点が4人も！



○講評する長田研修委員長と今回は100点満点が4人も出ました。おめでとう御座います。前回は1人しか出なかった満点を取った者が今回は4人もおり長田研修委員長もご満悦の様子である。



○修了式で挨拶する藤田理事

このような研修が出来るのも（一社）日本植物防疫協会（日植防）の社会貢献事業にあると思います。研修費用は教材費のみで講師料等は全部日植防持ちです。

日植防の皆さんに感謝！！

11. 第18回 IET セミナー

日時：10月6日（金）

場所：アルカディア市ヶ谷

テーマ：農薬登録に係る作物残留試験の最近の話題

出席者：宮坂技術顧問



○アルカディア市ヶ谷にて開催いたしました第18回 IET セミナーは、「農薬登録に係る作物残留試験の最近の話題」をテーマとし、「農薬を使用することができる作物群」の策定に関する最新情報や弊所の各種作物の残留調査などを発表いたしました。

当日は官公庁、関係団体およびメーカーなど、120名が出席。

講演は農林水産省消費安全局農産安全管理課農薬対策室の入江真理課長補査が「農薬を使用することができる作物群」について説明した。

【組合員代表者交替】

阿古薬品株式会社

新 代表取締役社長 阿古哲史氏

阿古和彦氏は取締役会長に

株式会社 ヲアグリ

新 代表取締役社長 杉野隆志氏

杉野俊郎氏は取締役会長に

日星コーポレーション株式会社

新 代表取締役社長 巢原泰則氏

加藤忠明氏は退任

「植物防疫」記事紹介 11月号



【目次】

植物防疫平成29年11号に予定されている掲載記事の紹介。

セイヨウオオマルハナバチの代替種の利用方針の策定について（農水省生産局園芸作物課）

適切な農薬の後作物残留リスク評価に基づく実効的な管理技術の開発（清家伸康）

施設栽培における天敵利用成功のための栽培管理技術（森光太郎）

奈良県の露地ナス栽培における天敵温存植物を利用した害虫防除（井村岳男）

施設キュウリにおけるミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミの総合的管理技術
（下元満喜）

外来種クビアカツヤカミキリの徳島県内での発生状況とその対策について（中野昭雄）

QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生地域における他系統薬剤及び QoI 剤の本田防除剤を組み
込んだ体系防除の効果検証（石井貴明）

アブラムシ類における簡易薬剤感受性検定法の開発（松浦 明）

改良 DIBA 法によるウイルス病の簡易診断（櫛間義幸）

【リレー連載】

農薬製剤・施用技術の最新動向

①航空防除（有人・無人航空機） 柳 真一

全国農薬協同組合 金子昌弘理事が去る8月25日ご逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。金子理事は通算11年全農薬の理事をお務めいただき、この間、常務理事、経済委員長を歴任、全農薬理事長との声も掛かる中、病に倒れ、惜しまれつつご逝去されました。享年57歳、若すぎる最後でした。

謹んでお悔やみ申し上げます。



○地区会議で挨拶する金子理事



○故松木理事長と金子理事



花一杯の黄泉の世界で松木元理事長と積もる話で盛り上がっているかな！合掌

行政からのお知らせ

農林水産省生産局技術普及課資材対策室からのお知らせ

〇AGMIRU（アグミル）の利用推進について

営業コスト軽減・販路拡大に！

農業資材比較サービス「AGMIRU（アグミル）」は皆様の経営をサポートします！

我が国農業の競争力強化を図るため、農林水産省では、農業者がより簡単に農業資材の価格やサービス等を比較し選択できる環境の整備を進めています。

この一環で、今年 6 月末から、農業者からの農業資材の調達ニーズに対して、自社の商品を効率的に提案できるウェブサービス「AGMIRU（アグミル）」（運営：ソフトバンク・テクノロジー株式会社）が始まっています。

アグミルは、資材販売事業者の皆様にとっては、

- ・これまでの営業できなかった農業者にアプローチできる
- ・農業者からの発注をシステム上で一括して管理することができるため、効率的に商談を進めることできる

などのメリットがあると考えています。また、販路が拡大したことにより効率的に在庫を処理できたとの声も聞こえてきています。

これから冬にかけて、来年産向けの資材の検討が本格化する時期になると思います。是非アグミルにご登録いただき、営業ツールの一つとしてご活用ください。

※ 農業資材比較サービス「AGMIRU」はこちらから（わかりやすい動画も掲載しています） <https://agmiru.com/>

※ 更なる利便性の向上に向けて、11 月末まで、アグミル利用者を対象に、「満足度アンケート調査」を実施中です

- ・資材販売事業者様：<http://seisansizai-kasika.jp/survey/seller/>
- ・農業者様：<http://seisansizai-kasika.jp/survey/agri/>

〇天敵増殖資材の利用マニュアルについて（農研機構）

～ 施設野菜の微小害虫防除に役立つ「バンカーシート利用マニュアル」公開 ～

農研機構を中心とする研究グループは、イチゴやキュウリ、ナス、サヤインゲンなどの施設野菜を食害する微小害虫（ハダニ、アザミウマ、コナジラミ等）を、天敵を使って効果的に防除するための天敵増殖資材（バンカーシート）の利用マニュアルを作成しました。バンカーシートの特徴や使用上のポイント、化学農薬との併用事例などを作物別にまとめ、写真や図表で分かりやすく説明しています。

今後、農薬の抵抗性問題、再評価による農薬数の減少等により、天敵利用の場面が増えることが想定されます。天敵を効果的に使用するため是非一読願います。

以下のアドレスから印刷できます。（全37頁）

http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/files/bankazentai.pdf

シオン（紫苑）

和名：シオン（紫苑）、英名：Tatarian aster 学名: *Aster tataricus*



シオンは、キク科シオン属の多年草で、別名はオニノシコグサ、ジュウゴヤソウ、オモイグサとも呼ばれ、秋には薄紫色で花径約 3cm の一重の花を咲かせます。その草丈は 180cm ほどまで成長し、主に観賞用としてよく栽培されます。

根や根茎にはトリテルペノイドおよびサポニンを含んでおり、咳止め・痰の除去・利尿剤として漢方薬に使われます。

紫苑は、大きな紫系の花が株にたくさん集まって咲く様子を草木が茂る様子を表した「苑」として漢字が当てられ『紫苑』とされました。また、別名のオニノシコグサ（鬼の醜草）との関係は、今昔物語に因んだものです。

「今昔物語集」は、今は昔で始まる平安後期の説話集で、その説話の中に、母の死をいたむ兄弟の物語があります。墓参りをかかさなかった二人ですが、仕事が忙しくなった兄は、忘れ草を墓前に植え、次第に墓参りをしなくなります。一方、弟は墓前にシオンを植え、雨の日も毎日墓参りを続けました。これに感じ入った鬼は、弟に予知能力を与え、その力のおかげで弟は幸せに暮らしたという話です。シオンの花言葉の「追憶」「君を忘れない」は、この物語の母を想う弟の気持ちに由来すると言われております。また、この話から鬼の醜草（オニノシコグサ）という別名がついたとされます。



別名2のジュウゴヤソウ（十五夜草）は、十五夜頃に開花することが由来とされます。

学名の「*Aster tataricus*」（アステル タタリクス）由来は、属名であるシオン（*Aster*）は、ギリシア語の *aster*（星）を語源として、星のように放射線状に伸びた花びらの姿からつけられました。また、*tataricus* はダッタン（韃靼）のを意味します。（ダッタンの星）

写真：小石川植物園（雨のため雨粒が花にかかり綺麗にとれませんでした。）

花言葉：追憶、君を忘れない